大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

日本語の「もっと」と中国語の「更」における双方向習得研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 陳, 建明, 曹, 婷 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00002725

日本語の「もっと」と中国語の「更」における双方向習得研究

陳　建明・曹　　婷

1．はじめに

本稿の目的は張麟声（2010，2011，2012）が提唱してきた「仮説検証型双方向習得研究」の手法を用い，中国語母語話者による程度の比較を表わす「もっと」の習得状況と日本語母語話者による程度の比較を表わす「更」の習得状況を比較，検討し，母語転移による誤用が起きやすい仮説を立てることにある。

本稿の構成は次の通りである。第２節においては，張麟声（2010，2011，2012）が提唱してきた「仮説検証型双方向習得研究」について概観し，第３節においては，日本語の「もっと」と中国語の「更」に関する対照研究を行い，２語が対応しないケースを重点的に検討する。第４節においては，中間言語コーパスを通し，日本語母語話者の「更」と中国語母語話者の「もっと」の誤用を考察した上で，母語転移による誤用が起きやすいケースについて仮説を立てる。最後に第５節においてまとめを行う。

2.「仮説検証型双方向習得研究」について

ここでは，張麟声（2010，2011，2012）が提唱してきた「仮説検証型双方向習得研究」について概観する。

近年張麟声氏は一連の研究で「仮説検証型双方向習得研究」という研究方法を提唱している。張麟声（2010b）は「対照研究・誤用分析・検証調査三位一体の研究モデル」について次のように述べている。

> この研究モデルは，母語のプラスの転移とマイナスの転移を積極的にとらえて，現場の教育活動に，迅速に還元していくことを目

指したものである。母語転移が学習者の母語と目標表現との間のさまざまな対応・非対応関係によって起こるとすれば，対照研究によってそれを予測することはできると考えられる。しかし，学習者の習得プロセスは，さまざまな要素から構成される複雑な心理的過程であるから，学習者の運用は，対照研究によって導かれた予測通りに，すべてが起こるような一筋縄でいくものではない。したがって教育活動に還元するためには，対照研究で分析した言語項目に関して，学習者の運用を見る必要がある。その分析方法の一つとして，誤用分析を行い，予測通りに転移が起こっている場合とそうでない場合とを見分けること，さらに，その質的，量的不備を補い，見たい言語項目に焦点を当てて，予測の正否を検証する検証調査を行うことを必要とする。このような一連の研究によって，母語転移が起こりうるケースを具体的に捉え，そして，それを教育現場に応用していくというのが，このモデルの目標であり，理念である。(p.78)

張麟声（2011）は昨今主流をなす第二言語習得研究のかなりの部分における調査は，仮説を構築するために行うもので，学習者の母語の役割をあまり重視しないと指摘した上で，その習得研究を「規則発見型習得研究」と呼ぶことにした。一方，自身が提唱している「対照研究，誤用観察[1]，仮説検証」という母語の役割を重視する習得研究のモデルを「仮説検証型習得研究」[2]と命名したと述べている。

---

[1] 張麟声（2011）では，それまで使用された「誤用分析」を「誤用観察」に変更した。

[2] 張麟声（2012）は，「規則発見型習得研究」「仮説検証型双方向習得研究」の違いについて，次のように記述している。「規則発見型習得研究においては，たとえ対照研究の研究成果をよく利用する研究者の場合でも，方法論的に対照研究を一つのステップとして位置づけることはなく，また，中間言語の観察も学習者に対して行う調査も等しく仮説を立てるための作業とされている。これに対して，筆者が提唱する仮説検証型習得研究においては，一つ目に対照研究は絶対飛ばすことができない研究のステップの一つであり，二つ目は，仮説は対照研究と誤用観察が終わった段階で立てるものであり，最後に，調査というのは，仮説を立てるためのものではなく，立てた仮説を検証・改善するためのものとしているのである。」(p.4)

張麟声（2012）は「仮説検証型双方向習得研究とは，この種の「仮説検証型習得研究」を相反する二つの方向から行うものである。すなわち，二つの言語，例えば日本語と中国語がそれぞれ母語と目標言語の役割を果たす場合において，日本語から中国語へ，または，中国語から日本語へというように，相反する二つの方向から「対照研究，誤用観察，仮説検証」といった三位一体の習得研究のモデルを用いて研究を進めるということである」（p.2）と論じている。

張麟声氏が提唱してきた「仮説検証型双方向習得研究」は母語転移を重視し，それを教育現場に迅速に還元していくという考え方が大変魅力的であると言える。したがって，ここでは日本語教育への応用を目指し，この研究方法に沿って，程度の比較を表わす日本語の「もっと」と中国語の「更」における双方向習得研究を試みたい。ただし，紙幅の制限で，本稿では，「対照研究，誤用観察」という二つのステップだけを論じることにとどまり，「仮説検証」は別稿に譲らせていただきたい。

3.「もっと」「更」に関する対照研究

3.1　「もっと」「更」が対応するケース

佐野由紀子（1998）は「もっと」のような程度副詞は「太郎は次郎よりもっと背が高い」が示すように太郎だけではなく，次郎も背が高いという前提条件を必要とすると指摘している。「もっと」に相当する中国語の程度副詞「更」も同じ前提条件を持っている。

（1）a．　白い鞄は安いが，赤い鞄は（白いのより）<u>もっと</u>安い。
　　b．　白色的包很便宜，不过红色的（比白色的）<u>更</u>便宜。
（2）a．＊白い鞄は高いが，赤い鞄は（白いのより）<u>もっと</u>安い。
　　b．＊白色的包很贵，不过红色的（比白色的）<u>更</u>便宜。

例（1）（2）から分かるように，「赤い鞄は（白いのより）もっと安い」，「红色的（比白色的）更便宜」という言い方が成り立つ場合は「白

い鞄は安い」,「白色的包很便宜」ということを前提としなければならない。日本語の「もっと」と中国語の「更」は意味用法が非常に似ており，よく対応している。

3.2　「もっと」「更」が対応しないケース

無論,「もっと」「更」が対応しないケースも存在している。まず，２語の構文的位置は異なっている。「もっと」は文における位置が固定的ではなく，一般に被修飾語のすぐ前に置かれるが，主語の前に移動することも可能である。

（３）「タローはお父さんの所へ帰りたくないの？」「ぼく，お母さんの方がいい。お母さんより<u>もっと</u>，お姉さんの方がいい。」

（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』PB49_00124）

（４）　これが本当に<u>もっと</u>体制がうまくできておればもうちょっと早かったかもしれないかなと私 も思っておりましたが。

（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』OM42_00002）

例（３）（４）では,「もっと」は実質的に「（お姉さんの方が）いい」「（体制が）うまく」を修飾しているが，その位置が主語の「お姉さんの方」「体制」の前に移動することが可能である。

一方，中国語の「更」の文における位置は固定的で，被修飾語のすぐ前に置くしかないと考えられる。

（５）a．从这个意义上说，他得感谢我！不过，我<u>更</u>应该感谢他，因为他可以让我一夜成名。

（卞庆奎《中国北漂艺人生存实录》，2009年）

b．＊…<u>更</u>我应该感谢他，因为他可以让我一夜成名。

（その意味では，彼は私に感謝すべきだ。だが，僕はそれ以上に彼に感謝すべきだ。彼のおかげで，僕は一夜で有名になった。）

（６）a．中国经济发展到今天的规模，已经无法再在世界经济中扮演小贩的角色，只能在遵守市场游戏规则的前提下，换取

更大的铺位。
(http://www.cn99.com/cgi-bin/getmsg?listname=uprich&id=4)

b．＊…只能在遵守市场游戏规则的前提下，更换取大的铺位。（中国経済が今日の規模にまで発達した結果，もはや世界経済の中で小さな商人の役割を演じているわけにはいかず，市場ゲームのルールに従って，もっと大きな役割を演じるほかない。）

例（5）a.，（5）b．と（6）a.，（6）b．が示すように，「更」は必ず被修飾語「应该感谢」「大」の前に置かなければならず，他の位置に移動することができない。

次に，2語はモダリティ要素との共起制限が異なる。陳建明（2012）が指摘したように，「もっと」はすべてのモダリティ要素[3]と共起できるが，「更」は意志・問いかけを表すモダリティと共起できるが，要求を表すモダリティとは共起できない。勧誘を表すモダリティとも共起できるが，制限がある。（以下の用例は陳建明（2012）から援用。）

（7）　今后让我们更关注环境保护问题吧！（今後環境保護問題にもっと注目しよう。）

（8）　＊让我们把房间打扫得更干净点儿吧。（部屋をもっときれいにしようという意味。）

（9）　＊请跑得更快点儿。（もっと速く走ってくださいという意味。）

また，「もっと」「更」は動詞との共起制限[4]が違う。「もっと」は「広

---

[3] ここで述べたモダリティ要素は「真正モダリティ」を指す。「真正モダリティ」の定義と分類は仁田義雄（1991）に従う。仁田義雄（1991）は発話・伝達のモダリティを①〈働きかけ〉，②〈表出〉，③〈述べ立て〉，④〈問いかけ〉の四つのタイプに分けている。

[4] 今回あげられた「位置の自由性」「非限界変化動詞との共起」は，「もっと」にかぎらず，「更に」「一層」などいわゆる「もっと」類の副詞全てに当てはまる性質だろう。そうすると，厳密に「もっと」の転移とはいえなくとも，「もっと」類からの転移と主張することができる。今回は「厳密には「もっと」のみから転移したとはいえず，日本語の「もっと」類の副詞に共通する性質から負の干渉を起こしたと考えられるが，話を単純化するために「もっと」で代表させて議論を進める。

げる」「高める」等のような「非限界変化動詞」,「喜ぶ」「楽しむ」のような「心的活動動詞」,「努力する」「親しむ」のような「態度の現れに関わる動きを表す動詞」と共起できる[5]。一方，章紀孝・水野義道（1984）は中国語の「更」が修飾できる動詞は「想（したい)」,「愿意（自ら望んで…をする)」等の心理動詞や「能（できる)」「会（できる)」等の可能動詞に限られていると指摘している。先行研究の指摘を見ると,「更」が修飾できる中国語の動詞に相当する日本語の動詞は「もっと」もほぼ修飾できる。一方,「もっと喜ぶ」「もっと努力」が中国語に訳すと「更高兴」「更努力」になるように「もっと」が修飾できるいわゆる「心的活動動詞」「態度の現れに関わる動きを表す動詞」に相当する中国語の動詞は「更」も修飾できる。よって，２語が修飾できる動詞の相違は主に「非限界変化動詞」にあると言える。

（10）a．要するに，無料にして有効な活用の道を<u>もっともっと</u>広げるということは経済にプラスになるというんであれば，…。

（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』OM61_00010）

b．？总之，免费利用高速公路，<u>更</u>扩展有效利用的道路，如果这些对经济有利的话，…。

例（10）a．では,「もっと」が「広げる」という「非限界変化動詞」を修飾できるが,「もっと」を「更」に直訳すると，その訳文（10）b.は不自然な文になる。

また, 意味的相違として,「もっと」は語用論的否定の意味要素を持っているが,「更」は持っていない。陳建明（2012）は「本稿における語用論的否定の意味とは,「ＸはＹより程度副詞Ａ」というとき，比較対象Ｘと比較基準Ｙの大小関係を表すと同時に，比較基準Ｙはある程度Ａだが, 比較対象Ｘに及ばず, 十分にＡではないという話し手（書き手）による比較基準Ｙへの否定の意味を指す」(p.223) と述べている。

---

[5] 仁田義雄（2002:173～177）は純粋程度の副詞が「非限界変化動詞」「心的活動動詞」「態度の現れに関わる動きを表す動詞」と共起できると指摘している。

（11）　この本は安いが，その本は（この本より）もっと安い。

（陳（2012：223）

例（11）では，一般的に考えると「この本」は安いが，しかし「その本」と比べれば，「この本」は「その本ほどには安くない」という「この本」を否定する含意が含まれている。「もっと」の程度の比較を表す意味が希薄になり，語用論的否定の意味が前景化するとき，佐野由紀子（2004）が述べた「否定的用法」[6]が生まれると考えられる。

（12）A：（四畳半の部屋を見ながら）「あなたの部屋もこんなに狭いの?」

B：「いいえ，わたしの部屋はもっと広いです」

（渡辺史央1996：64）

（A：你的房间这么小吗？　B：＊不，我的房间更大。）

例（12）は「もっと」の「否定的用法」である。その訳文から明らかなように，「否定的用法」の場合，「更」に直訳することができない。つまり，「更」は語用論的否定の意味を含んでいないと考えられる。

最後に２語において文体の相違がある。陳建明（2010）は「もっと」は客観的描写を表す場合に用いられにくいが，話し手の主観的な判断・心的態度を表す用例によく用いられると記述している。つまり，「もっと」は主観性が強いため，一般に話し言葉に用いられる。これに対して「更」は主観性が割合に弱く，客観的描写を表わす場合でも用いられ，つまり，話し言葉にも書き言葉にも用いられる[7]。以下の２例は原文では「さらに」[8]が用いられ，「もっと」に置き換えると不自然な文になる。その中国語の訳文では「更」が用いられる。

（13）a．さきほどまで鳴いていた蝉の声はやんだが，午後の光

---

[6] 佐野由紀子（2004）は比較基準の状態に注目し，「もっと」の用法を「程度用法」と「否定的用法」にわけ，「程度用法」は二者の程度の大小関係を表すのに対し，「否定的用法」は一方を否定し，もう一方を適当な値として捉える働きを持つものであり，程度の大小関係を表さないと記述している。

[7] 李暁琪（2005：85）は「更」が話し言葉にも書き言葉にも用いられると指摘している。

[8] 「さらに」は「もっと」より客観性が強いため，客観的な描写に用いられる。これについて，陳建明（2010a）を参照していただきたい。

は？もっときびしくなっている。　（遠藤周作『沈黙』）

b．直到刚才一直鸣叫着的蝉声现在不叫了，午后的阳光变得更强烈了.

(14) a．ここ半月ほどのうちに，下田の婆やは？もっと痩せ衰え，？もっと憔悴し，見舞客の誰もが一目見て，いずれは駄目なのだと…。　（北杜夫『楡家の人々』）

b．短短半个月里，下田婆婆更瘦弱，更憔悴了。看望她的人看了一眼都觉得她已经不行了。

以上程度の比較を表わす日本語の「もっと」と中国語の「更」が対応しないケースを突き止めた。２語がずれているケースをまとめると以下の通りとなる。

①「構文的位置の相違」
②「モダリティ要素との共起制限の相違」
③「動詞との共起制限の相違」
④「意味的相違」
⑤「文体の相違」

4.「もっと」「更」に関する誤用観察

３節では，日本語の「もっと」と中国語の「更」を対照研究し，２語がずれているケースを明らかにした。次のステップとして，２語がずれている５ケースについて，誤用が起きるかどうか，起きるなら，どのように起きるのかを中間言語コーパスを利用して観察する。

本稿では，台湾東呉大学が構築した『LARP at SCU訪談資料集』コーパスを用いて中国語を母語とする日本語学習者の「もっと」の習得状況を，北京言語大学が構築したHSK動的作文コーパス（日本語母語話者によるデータに限る）を用いて日本語を母語とする学習者の「更」の習得状況を観察した。観察した結果，中国語母語話者による「もっと」の用例を231例収集し，そのうち正用例は198例あり，誤用例は33例ある。日本語母語話者による「更」の用例を全部で873例収集し，その

うち，正用例は746例あり，誤用例は127例ある。２語の誤用例の中で，上述した５ケースにおける「もっと」の誤用例数と「更」の誤用例数を次の表１に示す。（() の中のパーセンテージは各ケースの誤用例数が中国語母語話者または日本語母語話者による誤用例総数を占める割合を示す。）

表１

	５ケースにおける２語の誤用例数	
	中国語母語話者（「もっと」）	日本語母語話者（「更」）
①「構文的位置の相違」の場合	0	26(20%)
②「モダリティ要素との共起制限の相違」の場合	0	0
③「動詞との共起制限の相違」の場合	0	9(７%)
④「意味的相違」の場合	0	0
⑤「文体の相違」の場合	29(89%)	0
その他	4(11%)	92(73%)[9]

表１が示すように，５つのケースにおける中国語母語話者による「もっと」の誤用例の中で，⑤「文体の相違」の場合の「もっと」の誤用例だけは見つかり，しかもほぼ誤用例総数（33例）の９割を占めている。これに対して，日本語母語話者による⑤「文体の相違」の場合の「更」の誤用例は1例も見つからなかった。

一方，①②③④における日本語母語話者による「更」の誤用例の中で，①「構文的位置の相違」の場合と③「動詞との共起制限の相違」の場合の誤用例だけが見つかり，②「モダリティ要素との共起制限の相違」の場合と④「意味的相違」の場合の誤用例は見つからなかった。これに対して，この４ケースにおける中国語母語話者による「もっと」の誤用例は見つからなかった。

ここで，まず中国語を母語とする学習者による「もっと」の誤用

[9]「その他」における「更」の誤用例は「更」の回避，「更」の類義語との混用によるものである。これは母語転移に関わっていないため，本稿ではこれ以上触れないことにした。

例[10]を挙げておこう。（→の右は適切な言い方。以下同。）

（16）a．確に，科学が発展していながら，様々な物が作られます。私たちの生活も＊もっと（→さらに）便利になりますけどゴミ問題はだんだん厳しくなっています。[11]

b．的确科学发展的同时各种产品被生产出来。我们的生活也变得更方便了。不过垃圾问题渐渐地严重起来。

（17）a．忙しくて運動場に行けない人も絶対にテレビで野球試合を見る。その現象は王建民がアメリカの大リーグで初登板してから，？もっと（→さらに）熱くなった。

b．就连忙得无法去运动场的人也绝对会通过电视收看棒球比赛。自从王建民开始在美国棒球联赛打比赛后这种现象更火了。

例（16）（17）はある状況・現象を述べる文（書き言葉に近い）であり，「もっと」が用いられにくい。その中国語の訳文では，「更」が制限なく用いられる。他の27例の誤用例も書き言葉の文である。これは３節で論じたように，「もっと」が話し言葉だけに用いられるのに対して，「更」が話し言葉にも書き言葉にも用いられるという結果と一致していると言える。それゆえに，中国語母語話者は「もっと」を用いる時，中国語の「更」の用法の影響すなわち母語転移が起こるため，このような誤用を犯した可能性が十分に考えられるだろう。

したがって，この結果を踏まえ，次の仮説を立てることにする。

仮説１：中国語母語話者が「もっと」を習得する際に，話し言葉に比べ，書き言葉の場合，誤用を起こしやすい。

---

[10] 原文に「もっと」以外に多くの間違いがあった。便宜上他の間違いに手を加えた。なお，「更」の用例も同様。

[11] 話し言葉か書き言葉かという文体の判断ははっきりした基準がないため，本稿では，「もっと」の不自然な用例は「もっと」を書き言葉によく用いられる「より」「さらに」に言いかえられると，適格な文になるかどうかによって，文体の問題かどうかを判断した。なお，「もっと」の用例の文法性判断について５人の日本語母語話者に協力を求め，「○」「？」「×」三段階で判断していただいた。４人以上が○と判断した用例は自然な例文と見なした。２人以下が○と判断した用例は不自然で成立しない例文と見なし，「＊」をつけて表示した。その他は，不自然さを伴い判断しにくい例文と見なし「？」をつけて表示した。

次に，日本語を母語とする学習者による「更」の誤用例を考えてみよう。下に挙げているのは①「構文的位置の相違」の場合の誤用例である。

(18) a．我通过这假期，体会到中国人的友好，更喜欢学中文，＊更对中国感兴趣（→对中国更感兴趣）了。

b．私は休みを通じて中国人の親切さを体験して，もっと中国語が好きになって，もっと中国に興味を持つようになった。

(19) a．虽然以减少噪声为目的的这个计划好是好，但是从别人的方面看，这计划也可能把问题？更弄地（→弄地更）乱七八糟。

b．騒音の減少を目的とするこの計画はよいが，他の角度からみれば，この計画はこの問題をさらにめちゃくちゃにしてしまうかもしれない。

(20) a．因为他会把烟吸进去，这样对身体产生很不好的影响。还有那些婴儿，孕妇等比正常人＊更有（→有更）不好的影响。

b．その人は煙草を吸うので，体に悪い影響を受ける。また，赤ちゃんや妊婦は普通の人よりさらに悪い影響を受ける。

(21) a．青少年吸烟比成年人＊更有（→有更）大的害处。

b．青少年が煙草を吸うのは成年よりさらに大きな悪い影響がある。

(22) a．对一个人来说，吸烟是一种爱好，但既然会给周围带来副作用，就？应该更（→更应该）强调保护周围环境的工作。

b．人にとって，喫煙は好みですけれど，周りに悪い影響をもたらすから，もっと周りの環境を保護しなければならない。

(23) a．我想如果会说汉语的话，我？更能（→能更）了解中国，所以学汉语。

b．もし中国語ができれば，もっと中国のことを理解できる

から中国語を勉強することにした。

上の誤用例では，「更」が被修飾語のすぐ前ではなく，被修飾語を少し離れる前の位置に置かれている。その訳文から明らかなように，「もっと」が被修飾語を少し離れる前の位置に置かれても文の適合性は変わらない[12]。よって，日本語母語話者の「更」の誤用は「もっと」の用法，すなわち母語転移によるものだと考えられるであろう。

また，上に挙げた誤用例は「更」が「对中国感兴趣」「弄地乱七八糟」のような動詞句を修飾するタイプ（例（18），（19）），「更」が「有不好的影响」「有大的害处」のような「ある」構文を修飾するタイプ（例（20），（21））,「更」が「应该」「能」[13]のような助動詞を修飾するタイプ（例（22），（23））の３タイプに分けられる。

次に，③「動詞との共起制限の相違」の場合の誤用例を見てみよう。

（24）a．我认为我们首先应该解决的就是这个问题。＊更（→进一步）提高农作物的产量来解决饥饿问題是我们最重要的任务。

b．我々はまずこの問題を解決すべきだ。もっと農産物の収穫量を挙げて，飢饉の問題を解決するのが最も重要なことだ。

（25）a．一到三个人，那种优越感也比两个时？更（→进一步）减少了。

b．三人になると，その優越感は二人の時よりもっと減りました。

例（24）a．と（25）a．は，「更」が「提高（上げる）」「减少（減少する）」のような「非限界変化動詞」と共起しにくいので，不自然な文になった。これに対して，その日本語の訳文では，「もっと」が「提高」「減少」に対応する「上げる」「減少する」を修飾できる。これは３節で「もっと」が「非限界変化動詞」を修飾できるのに対して「更」

---

[12] 一部の訳文で「もっと」が用いられにくいのはそれは書き言葉であるためだ。
[13] 中国語の文法では一般に能願動詞と呼ばれている。

はできないとの指摘と一致している。それゆえに，この場合の「更」の誤用も「もっと」の用法すなわち母語転移によるものだと考えられる。

したがって，以上の誤用観察の結果を踏まえ，以下の仮説を立てることができるだろう。

仮説２：日本語母語話者が「更」を習得する際に，「更」がａ動詞句，ｂ「ある」構文，ｃ助動詞（中国語の能願動詞），ｄ「非限界変化動詞」を修飾する場合，誤用を起こしやすい。

なお，②「モダリティ要素との共起制限の相違」の場合と④「意味的相違」の場合も「もっと」が「更」より幅広く用いられるが，誤用観察では，日本語母語話者の誤用例は見つからなかった。言い換えれば母語転移が見られなかった。無論，周知のように，言語的にずれていても，必ずしも母語転移が起きるとは限らない。ただし，ここで述べたいのはコーパスの性質による影響である。例えば，②における「もっと」はモダリティと共起するケースで，主として話し言葉に用いられると考えられる。本稿が利用した中間言語コーパスは学習者の作文を収録したもので，文体的に書き言葉寄りなので，コーパスの性質が調査した結果に影響しているのは否めない。よって，これから②について話し言葉コーパスを利用してさらに検討する必要がある。いずれも今後の課題にする。

④「意味的相違」の場合，「更」には「もっと」が持っている「語用論的否定の意味」が存在しない，つまりこの意味において２語は明確に異なっているため，母語転移が起きにくいと推測できるだろう。

また，次のステップとしてこの二つの仮説について検証調査を行わなければならない。このステップを通じて，質的・量的に二つの仮説を論証し，最終的に「もっと」「更」の習得に母語転移が起きているかどうかを確認した上で，二つの仮説が妥当かどうかを裏付ける。ただし，時間と紙幅の関係で，本稿では，日本語の「もっと」と中国語の「更」に関する対照研究・誤用観察だけを進め，検証調査は別稿に譲らせていただきたい。

5. おわりに

本稿で考察した結果をまとめると，以下の通りである。

「もっと」「更」に関する対照研究の結果，２語には，①「構文的位置の相違」，②「モダリティ要素との共起制限の相違」，③「動詞との共起制限の相違」，④「意味的相違」，⑤「文体の相違」が存在している。

さらに，誤用観察を行った結果を踏まえ，次の仮説を立ててみた。

仮説１：中国語母語話者が「もっと」を習得する際に，話し言葉に比べ，書き言葉の場合，誤用を起こしやすい。

仮説２：日本語母語話者が「更」を習得する際に，「更」がａ動詞句，ｂ「ある」構文，ｃ助動詞（中国語の能願動詞），ｄ「非限界変化動詞」を修飾する場合，誤用を起こしやすい。

また，今後の課題として，上記した二つの仮説について検証調査を行い，仮説の妥当性を証明することが必要である。

用例出典

『CD-ROM版　新潮文庫の100冊』に収録された作品：
北杜夫『楡家の人々』／遠藤周作『沈黙』
『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（2008版）
北京大学中国語研究センターCCLコーパス
（http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/URL）
『LARP at SCU訪談資料集』コーパス
HSK動的作文コーパス
日本語と中国語のGoogle検索エンジン

参考文献

陳建明（2010）「比較に関わる「もっと」類程度副詞の使用条件」『KLS』30，関西言語学会.
陳建明（2011）『日本語と中国語の比較に関わる程度副詞の対照研究―「程度増加」型副詞を中心に―』，大阪府立大学大学院博士論

文（未公刊）.
陳建明（2012）「程度の比較に関わる日本語の「もっと」「さらに」と中国語の「更」「更加」の相違について」『汉日语言对比研究论丛』３，汉日对比语言学研究(协作)会.
李晓琪（2005）《现代汉语虚词手册》，北京大学出版社.
仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』，ひつじ書房.
佐野由紀子（1998ａ）「比較に関わる程度副詞について」『国語学』195，国語学会.
佐野由紀子（2004）「「もっと」の否定的用法について」『日本語科学』15，国立国語研究所.
渡辺史央（1996）「比較性程度副詞「ずっと」「もっと」「さらに」についての覚書」『さわらび』５，文法研究会.
張麟声（2010ａ）「対照研究・誤用分析・習得研究三位一体の研究モデルについて」『言語文化学研究　言語情報編』５，大阪府立大学人間社会学部言語文化学科.
張麟声（2010ｂ）「編集後記」『中国語話者のための日本語教育研究』創刊号，中国語話者のための日本語教育研究会.
張麟声（2011）「仮説検証型双方向習得研究について ―日本語の「も」と中国語の「也」を例に」『中国語話者のための日本語教育研究』２，中国語話者のための日本語教育研究会.
張麟声（2012）「日本語の「の」と中国語の「的」における双方向習得研究 ―修飾部が指示詞であるなど３ケースを例に(1)」『中国語話者のための日本語教育研究』３，中国語話者のための日本語教育研究会.

付記　本稿は，2012年～2013年度西安工業大学校長基金『汉语和日语程度副词的对比研究』（課題番号：XAGDXJJ1234）の研究成果の一部である。

陳建明(西安工業大学　専任講師)　曹婷(陝西師範大学　准教授)